

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2020 年 12 月 3 日作成 第 1 版

研究課題名	前立腺癌に対するロボット支援前立腺全摘除術 (RARP) における吸収性局所止血剤 (バード アリスタ AH) の有用性に関する検討
研究の対象	2017 年 12 月 1 日から 2020 年 11 月 30 日までに横浜市立大学附属病院で前立腺癌に対してロボット支援前立腺全摘除術を施行した患者さん。
研究目的 ・方法	<p>前立腺癌に対する外科的治療として、近年では手術支援ロボットによるロボット支援前立腺全摘除術 (RARP) が広く施行されています。RARP は従来行われていた開腹または腹腔鏡に比べて、出血量や輸血量の減少、在院日数の短縮や術後尿禁制の回復が早いと報告されています。リンパ節転移のリスクが高い症例では、リンパ節郭清を行うことが推奨されていますが、リンパ節郭清により手術時間や出血量の増加が報告されています。また、症例によっては術後性機能温存を目的とした神経温存をすることがありますが、神経温存により出血量が増加することが知られています。</p> <p>当院では 2014 年より RARP を導入しており、現在では年間 100 件以上施行しています。2019 年 6 月 1 日以降に施行された RARP のうち、リンパ節郭清または神経温存した症例では、術後出血の低減を目的に局所止血剤 (バード アリスタ AH) を使用しています。本研究では局所止血剤を使用する以前 (2017 年 12 月 1 日より 2019 年 5 月 31 日まで) に施行された RARP (リンパ節郭清または神経温存を行った症例) と局所止血剤を使用した症例 (2019 年 6 月 1 日より 2020 年 11 月 30 日まで) に施行された RARP について、患者背景、手術成績、術後合併症を比較検討することにより、局所止血剤の有用性を検討します。</p> <p>今回の研究結果により、将来治療選択の最適化や合併症予防法の開発に貢献できる可能性があります。</p>
研究期間	西暦 2021 年 1 月 18 日 (許可日) ~ 西暦 2022 年 12 月 31 日
研究に用いる 試料・情報 の種類	<p>上記期間に当該手術を受けられた患者さんを対象とし、後方視的に下記の日常診療で実施された項目を研究に使用します。</p> <p>患者基本情報 (年齢、身長、体重、既往歴、臨床病期、組織学的悪性度、入院期間)、血液検査、手術内容、病理学的所見、術後合併症、有害事象など。</p> <p>研究対象者の氏名等特定の個人を識別することができる情報を使用しない等、研究対象者の個人情報の保護について十分に配慮します。</p>

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9

横浜市立大学附属病院 泌尿器科 （研究責任者）榎山 和秀 （研究分担者）仁禮 卓磨

電話番号：045-787-2800（代表） FAX：045-786-5775